

城山保育園は、自然豊かな環境を活かして、のびのびとした保育を実現している。小学校でも「教育のまち城山」を特徴にするのはどうだろうか。これまでも寺子屋は成功しているが、さらに踏み込んだ城山小学校「魅力化プロジェクト」の立ち上げに、地域住民の力を貸すことが必要なのではないか。

⑤公民館の存在価値を再確認する

公民館の果たす役割も大きい。地域で多くのサークルが活動している。ここからつながりが生まれている。様々なイベントも楽しみだ。小学校での演奏会、地域の人々による講演会等盛りだくさんだ。しかし、担い手や参加者の高齢化が進んでいる。子どもたちを対象にした企画が立てにくくなっている。今一度、一校区に一公民館がある意義を再確認したい。

⑥校区全体の行事の意義を再確認する

年間通した校区の祭りなどの行事もコミュニティにとって重要な役割を果たしている。春の桜祭り、夏の校区まつり、秋の運動会、冬のどんど焼きなどが行われている。地域の皆が協力して、人と人とがつながり、老若男女が出会う機会となっている。しかし、小学校の生徒が減っていることや町民の高齢化によって、行事の存続が危ぶまれている面もある。

⑦区長や民生児童委員の待遇改善を考える

区長の予定表は、スケジュールで真っ黒である。高齢化が進むコミュニティの諸課題を丁寧に拾い起こし、対策を練って、活動している。しかし、町内活動に対する多様な意見や考えがあり、合意形成が難しくなっている側面もある。

民生児童委員の働きも重要である。一人暮らしの高齢者も増えている。見守り、声かけ、専門家や行政への連絡や相談の役割も、年々増えている。しかし、セルフネグレクトの事例でも分かるように、非協力的な人が増えていることも確かだ。いずれにしても、役員の待遇改善を含めた支援策を考えることが必要ではないか。

⑧県営住宅の新たな活用を考える

半分が空き家になっている団地の魅力を高めるためには、リノベーション工事や家賃の値下げなどの対応が必要ではないか。現在の条件のままで厳しい。県営住宅在住者によると家賃は51,000円で、駐車場が1台3,000円。2台借りているので合計5,700円/月かかる。家賃も高く、不便な

ので、居住者が減っている。

例えば、現在売り出されている2丁目の売家(土地73坪、建坪30坪)の販売価格は1,599万円。住宅ローンシュミレーションで借入額が1,750万円、借入期間が35年。月々48,387円のローンとなっている。県営住宅に住むより、戸建てのほうが安いともいえる。人口減少のために、別の地域ではさらに安い。県営住宅のあり方を根本的から見直す必要がある。

⑨地域全体で課題を共有し取り組んでいく

地域住民たちは、それぞれの役割や課題に真面目に取り組んでいる。だからこそ城山地区は「ゆるやかな関係性を保ちながら、孤立しないコミュニティをつくる」ことに成功しているといえる。しかし、どうしても縦割り行政の弊害も現れる。地域の住民が、みんなで課題を共有して、それぞれが協力し合って、できることを楽しみながら取り組んでいくことがますます大切になる。

<おわりに>

老いを豊かに生きるための知恵を探りたい。60歳以上の住民が約6割に達しようとしているこの城山でヒントを探したい、そんな思いをこめて調査は行われた。調査をやりながら、もうひとつの思いも生まれた。自然が豊かで安全な城山の町に、子どもたちの元気な声が響き渡り、老若男女が集い微笑む光景を、ずっと見ることはできないのだろうか。

調査に当たって、たくさんの皆さんにお世話になった。ご協力に心より感謝する。これからも、皆さんとともに、この城山の地で生活をしながら、城山の未来を考え続けたい。

2020年3月の調査報告書に基づいて作成した。

(大宮 登、大宮智江)